

【会長就任挨拶】

日本電気泳動学会会員皆様

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

4月1日から会長に就任しました大石です。本会は1950年に日本電気泳動研究会として設立され、翌年には機関誌「生物物理化学」が創刊されましたので、2016年の今年は創立66周年になります。本会は、学会設立当初から常に最新の技術に関する研究発表が行われてまいりました。また、臨床検査では電気泳動法が多用されたこともあり、臨床検査技師の方々も大勢、本会への参加が見られました。さらに、二次元電気泳動法と質量分析法を組み合わせることで、現在のプロテオーム解析法の土台が完成しました。しかしながら、近年では臨床検査方法における電気泳動の占める割合が減り、プロテオーム解析における電気泳動が占める割合も減って質量分析法を基盤とした手法にとって代わってきています。このような状況により、本会は運営が厳しい状態に立たされましたが、前会長の平野久先生の多岐にわたる改革の結果、学会員数が増加に転じ、内容の充実した過去2回における総会特集号が発行され、会費の改革によって正会員の負担が減るなど、さまざまな効果が目立つようになりました。

私の使命と致しましては、平野先生が行われたさまざまな改革を継続し、あらゆる面から総会やシンポジウムへの手助けを行い、若手研究者の学会誌への投稿を増やす努力を行うと共に、学会通信などを通じて学会員へのサービスを向上させることだと考えています。サービス向上の目玉として、(1) 若手会員のための「電気泳動法の基礎講座」、および(2) 名誉会員の方本人の執筆や、その方をよく知る方によるインタビューなどを通して作成する「学会回顧録」の作成などを考えています。本来ですと、2020年に学会発足70周年を迎えますので、70周年記念誌の発行という形式が想像できますが、近年の書籍離れを考えると、一冊の本にするよりも、執筆原稿が学会事務局に届いた時点で、なるべく早く学会通信として会員の皆様に読んでいただく方がよいと考えています。特に、日本電気泳動学会には、発足から現在に至る学会誌の豊富な蓄積がありますが、初心者にとっては、学会誌のどこから手を付けてよいかわかりません。そこで、専門家の方々にシリーズ形式で、「生物物理化学」や「電気泳動」、*Journal of Electrophoresis*の内容を易しく解説した基礎講座を執筆して頂くことも考えております。こうすることで、若手の方に、本学会の蓄積してきた豊富な経験や知識を伝えることができると信じています。

この4月から、日本電気泳動学会事務局は、横浜市立大学から北里大学理学部へ移転致します。それに伴い、学会事務局は小寺義男先生と医療衛生学部の長塩亮先生が担当されます。現在、事務局の引き継ぎ作業を行っているところです。

また、今年の8月26日(金)～27日(土)には、北海道釧路市で第67回日本電気泳動学会総会が、国立がんセンター研究所の近藤格先生を総会長として開催されます。会員の方々にはぜひ、総会への積極的な参加をお願い致します。また、非会員の方々にもお声をかけて頂き、本会への入会を勧めて頂けるよう、よろしくお願い致します。

平成28年4月4日

日本電気泳動学会 会長 大石 正道

日本電気泳動学会企業会員

アドバンテック東洋(株)

(株)島津製作所

(株)ナード研究所

(株)ヘレナ研究所

癸巳化成(株)

シャープ(株)

日本エイドー(株)

和光純薬工業(株)

コスモ・バイオ(株)

ナカライテスク(株)

バイオ・ラッド ラボラトリーズ(株)

(株)クリムゾン インタラクティブ ジャパン

【日本電気泳動学会電子メール通信】は、日本電気泳動学会会員の皆様に配信しています。【日本電気泳動学会電子メール通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい。ご意見を【日本電気泳動学会電子メール通信】に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問い合わせ】は、本会事務局 (secretariat@jes1950.jp) 宛にお願いいたします。